

2022年3月期第2四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2021年10月28日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

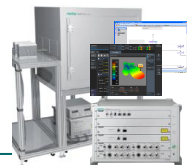
目次

1. 事業概要
2. 2022年3月期第2四半期 連結決算概要
3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



- ▶ 環境計測
- ▶ センシング & デバイス

(セグメント別売上比率)

2021年3月期 実績 (連結) : 1,059億円

通信計測 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 59%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 16%		

2022年3月期 (4-9月) 実績 (連結) : 512億円

通信計測 71%			PQA 21%	その他 8%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2021年3月期 実績

日本 18%	アジア他 47%	米州 23%	EMEA 12%
--------	----------	--------	----------

2022年3月期 (4-9月) 実績

日本 16%	アジア他 45%	米州 25%	EMEA 14%
--------	----------	--------	----------

通信計測事業 : 旧T&M事業 PQA : Products Quality Assurance

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比減収減益も通期予想に対する受注進捗は計画通り

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	540	548	8	1%
売上高	522	512	△ 10	△ 2%
営業利益	98	75	△ 23	△ 24%
税引前利益	97	75	△ 22	△ 23%
当期利益	71	55	△ 16	△ 23%
当期包括利益	71	58	△ 13	△ 18%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：5G開発需要は堅調に推移。半導体不足による売上への影響は継続

▶ PQA：新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域での売上が回復し、前年同期比増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	375	364	△ 11	△ 3%
	営業利益	90	71	△ 19	△ 21%
PQA	売上高	104	110	6	6%
	営業利益	7	7	0	5%
その他	売上高	43	39	△ 4	△ 8%
	営業利益	5	2	△ 3	△ 69%
調整額	営業利益	△ 4	△ 5	△ 1	-
合計	売上高	522	512	△ 10	△ 2%
	営業利益	98	75	△ 23	△ 24%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

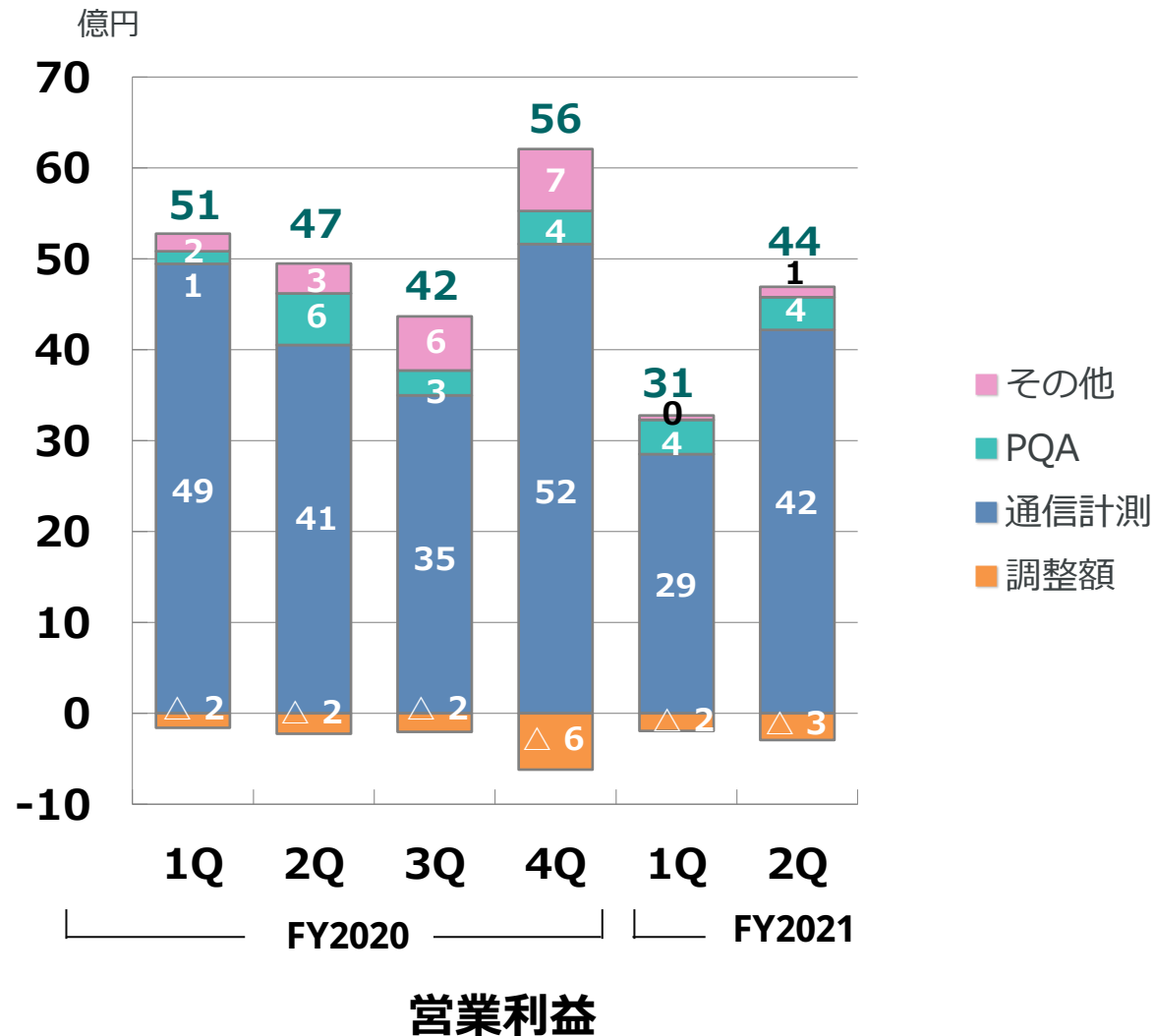
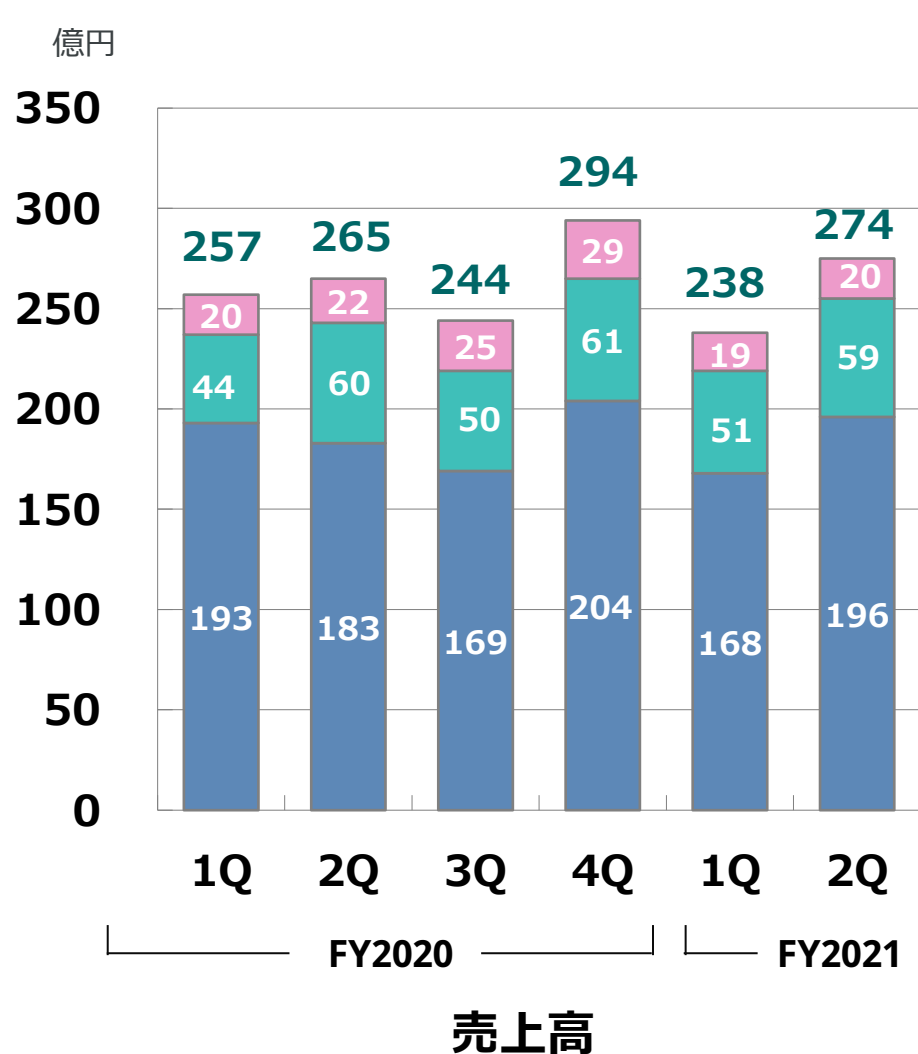
(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

通信計測事業：旧T&M事業

PQA：Products Quality Assurance

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 2Q(7-9月)営業利益率：連結 16%，通信計測 22%，PQA 6%



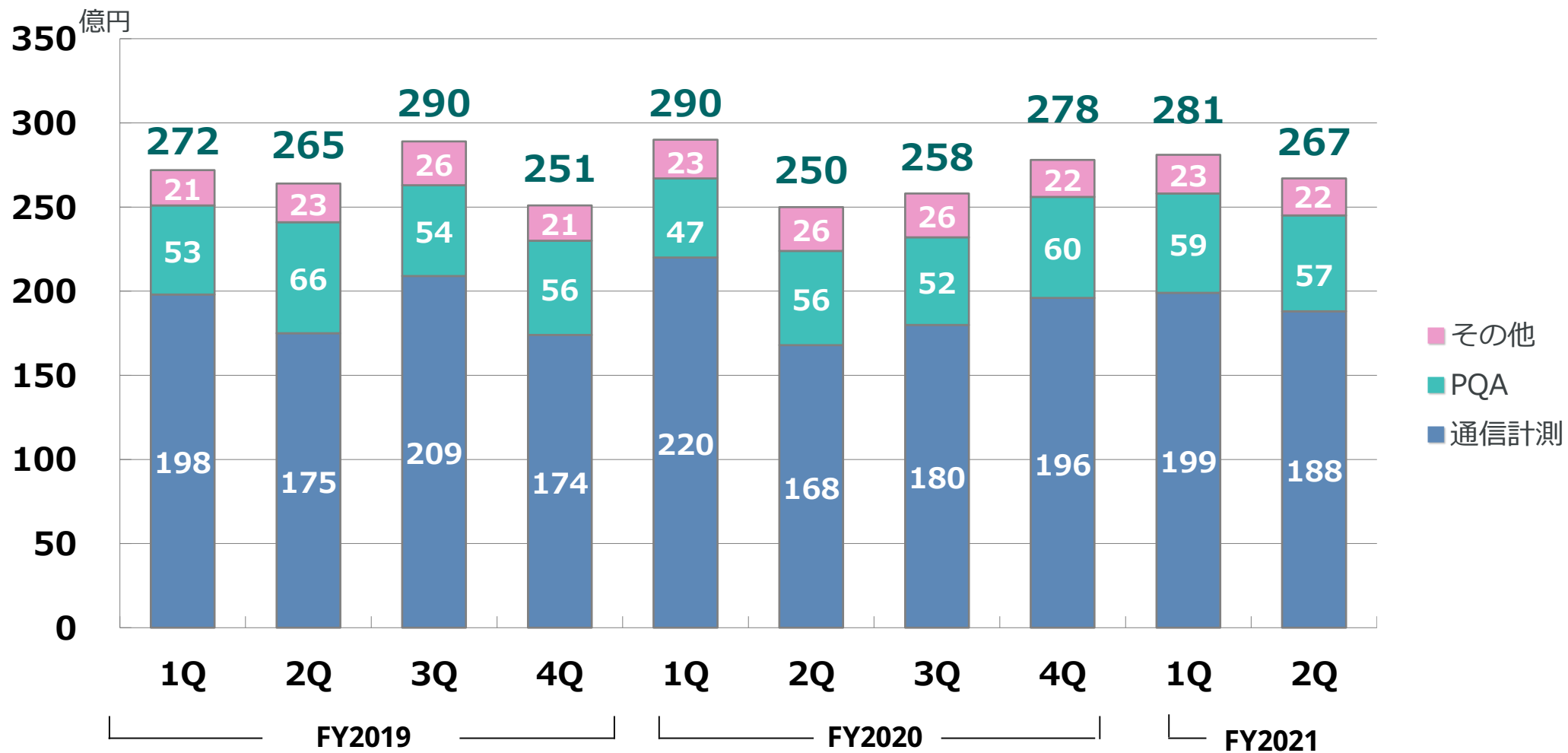
(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2022年3月期（4-9月）の状況	
<p>➡ 通信計測：5G商用化スケジュールおよびデータセンター高速化が順調に進展</p>	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が順調に推移
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資は堅調だが、スマホ製造の顧客で半導体不足により投資に影響
アメリカ	今年後半からのSub6GHz（Cバンド）の基地局敷設による需要回復に期待
<p>➡ PQA：アジアやアメリカ等、新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域の需要が回復</p>	

2-5. 受注高推移

通信計測：前年同期比12%増

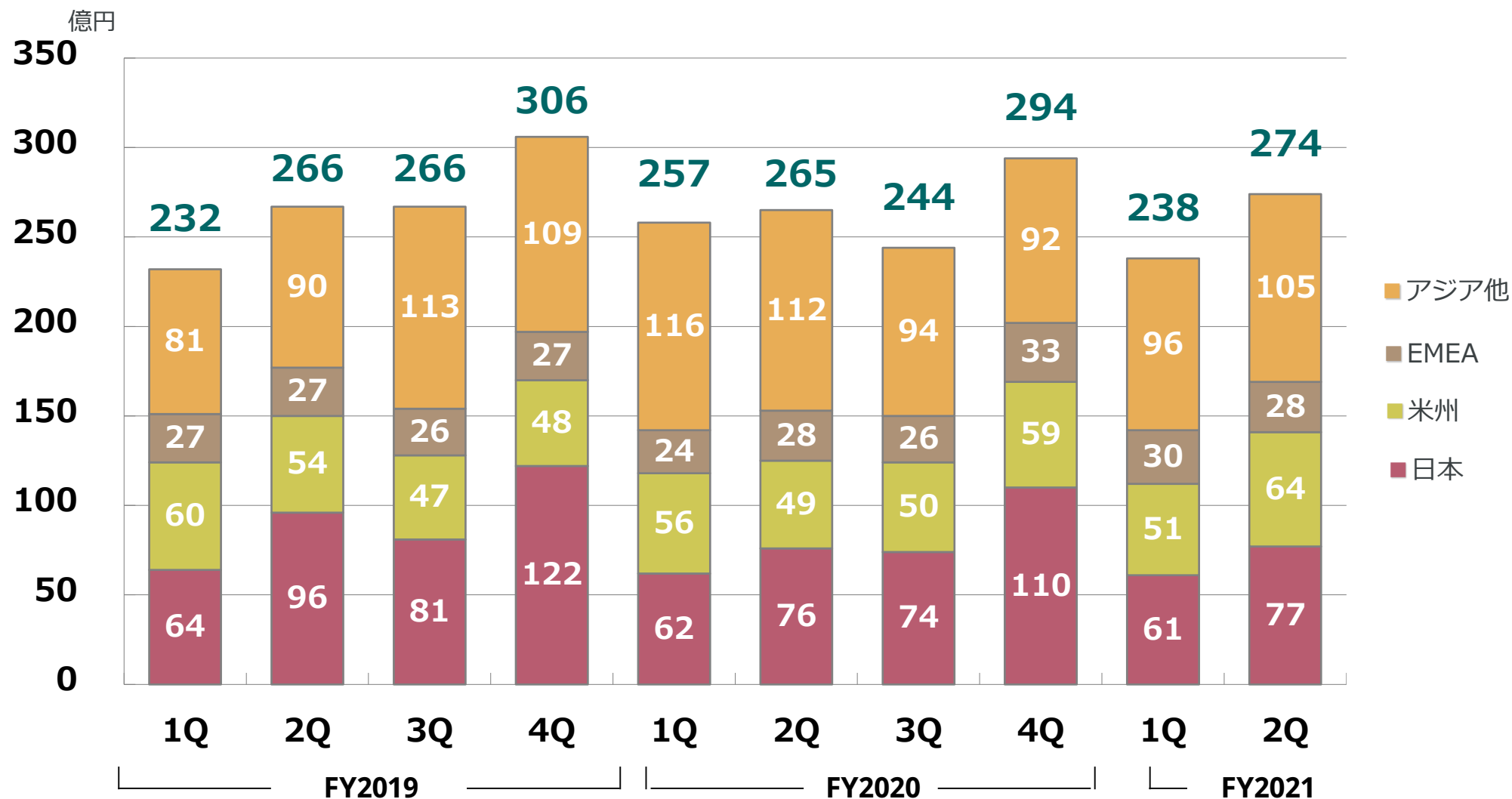
PQA：前年同期比 2%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移

▶ アジアの5G関連の需要は引き続き堅調



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率22.7%

FY2021 (4-9月)

- ① 営業CF : 116億円
- ② 投資CF : △ 23億円
- ③ 財務CF : △ 76億円

フリーキャッシュフロー

(① + ②) : 93億円

現金同等物期末残高

518億円

有利子負債高

64億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位 : 億円)



3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月27日の公表値のとおり

（単位：億円）

		2021/3期	2022/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,059	1,140	81	8%
営業利益		197	205	8	4%
税引前利益		198	205	7	3%
当期利益		161	162	1	0%
通信計測	売上高	748	820	72	10%
	営業利益	177	185	8	4%
PQA	売上高	214	230	16	7%
	営業利益	13	18	5	34%
その他	売上高	97	90	△7	△7%
	営業利益	18	12	△6	△33%
調整額	営業利益	△12	△10	2	-

（参考）FY20 為替レート : 1米ドル106円、1ユーロ=123円
 FY21通期予想作成時の想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

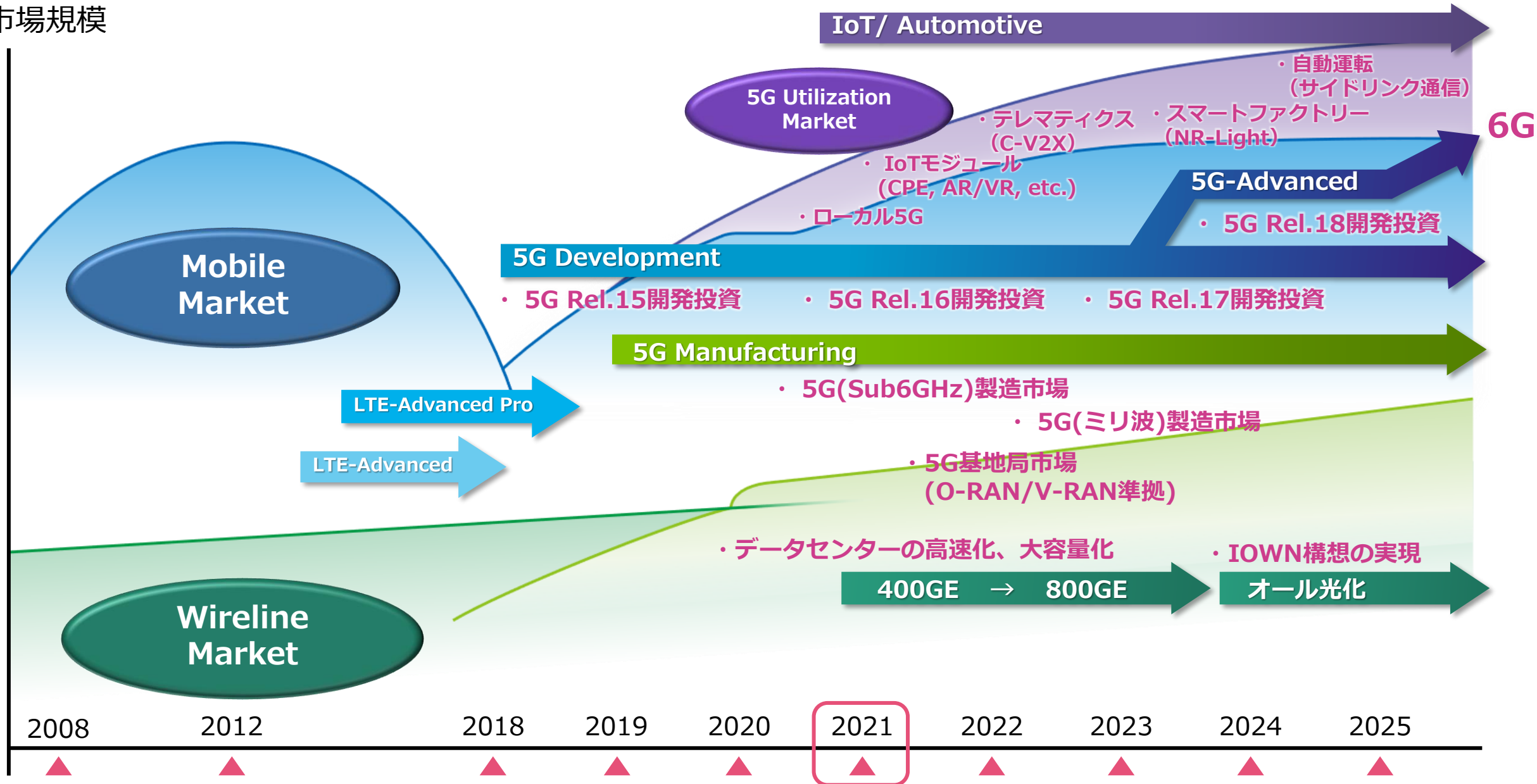
4. 当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



5G利活用計測ビジネスの領域

ビジネス規模

スマート
フォン/
タブレット
端末



- ・テレマティクス(C-V2X)
- ・自動運転(サイドリンク通信)



- ・ローカル5G、プライベート5G
- ・スマートファクトリー(NR-Light)



- ・IoTモジュール
(CPE, AR/VR, etc.)

自動車
分野

産業機器
分野

ホーム &
セキュリティ
分野

スマート
メータ分野

その他の
IoT分野

高度な5G機能を利用

5G機能を利用

4-3. 米国Cバンド需要の状況

1. 基地局建設保守需要

- 下期からの引合い増に期待
- 狭帯域での利用に向け、電波干渉対策のための調整が行われている模様

2. 端末開発需要

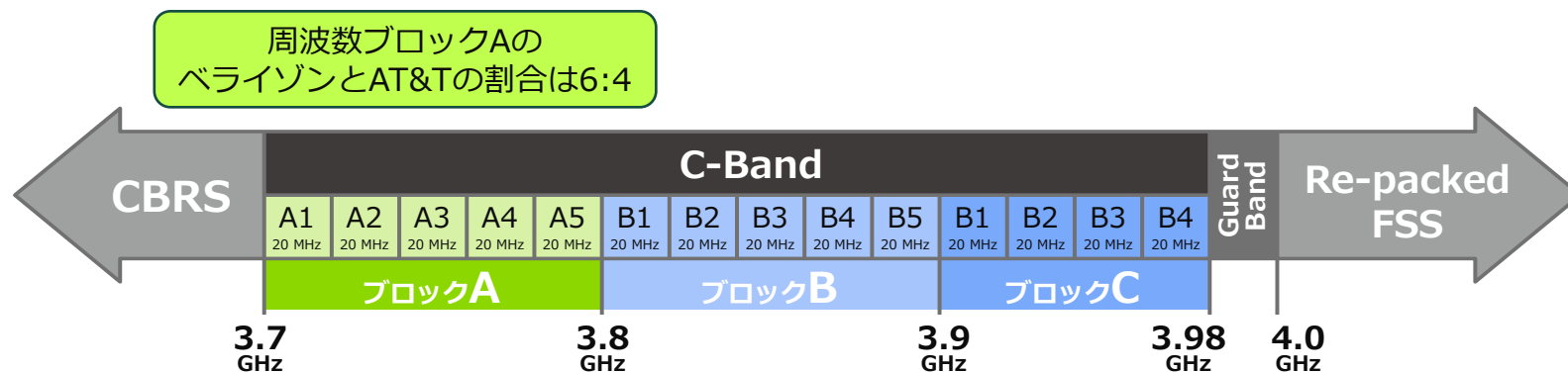
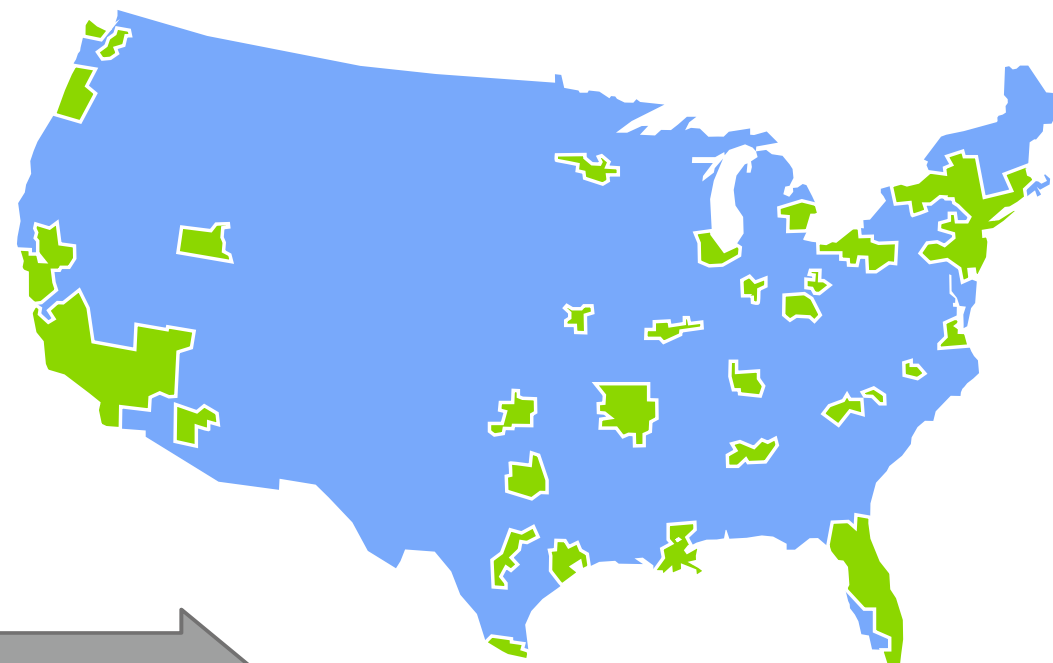
- 国内、海外でのCバンド向けスマホ開発の引合い、受注が増加

3. キャリアの受入試験需要

- キャリアを中心に、Cバンド向けスマホの受入試験のためのCT、CATの引合いが増加

- Phase 1 : 46PEAs & 周波数ブロックA
2021年末までに周波数開放
- Phase 2 : 残りのPEAs 及び 周波数ブロックB & C
2023年末までに周波数開放

*PEA(Partial Economic Area) : 部分経済区域 (全416区域)



出所：図は一般公開情報を参考に当社作成
地図は概略を示す

4-4. GLP2023重点分野 進捗状況



5G LABの開設
AK Radio Design社
立上げ

▲ AK Radio Design

ローカル5G

NEC
ネットエスアイ
と業務提携

モニタリング

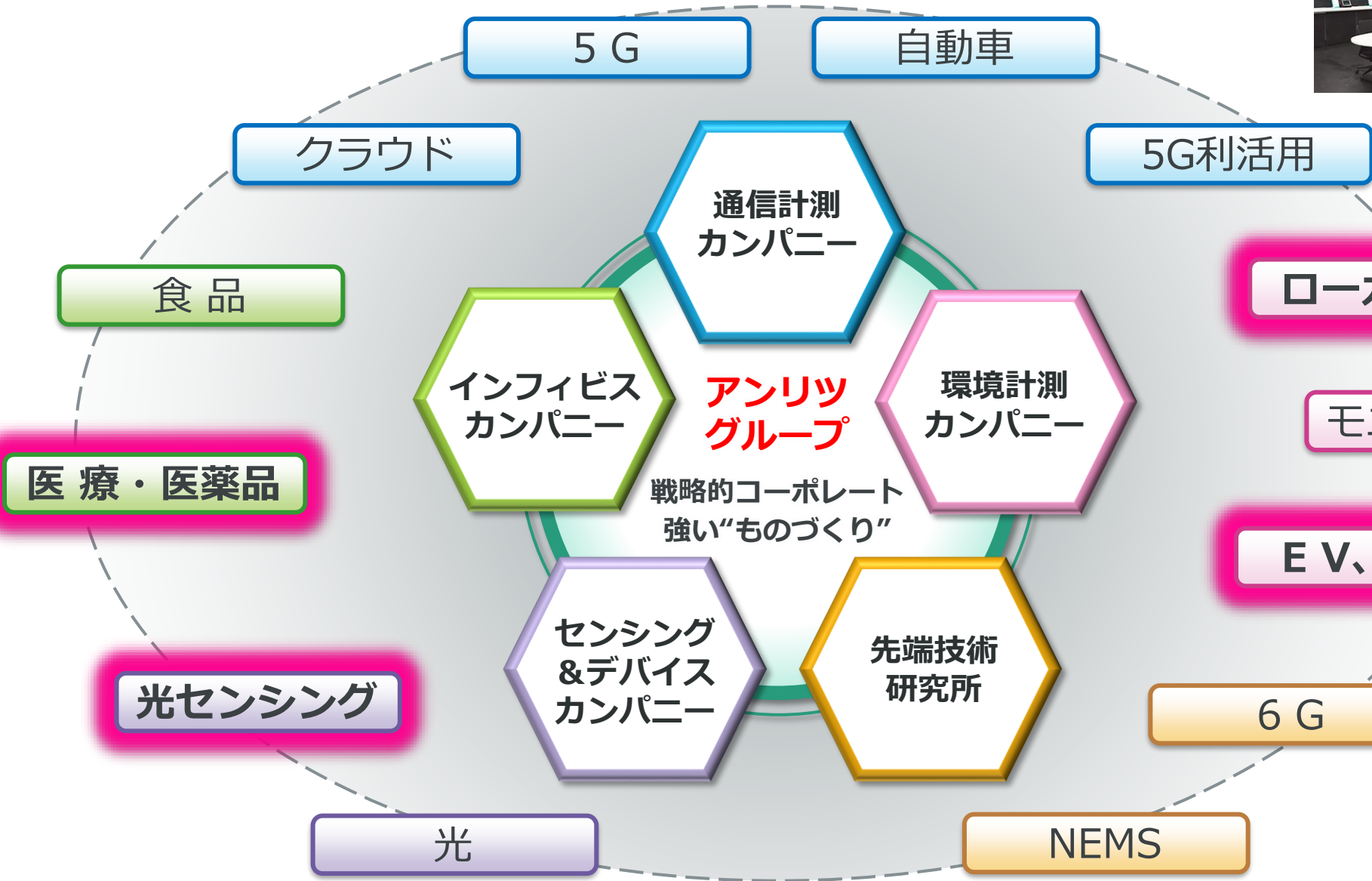
EV、電池

高砂製作所M&A
(2022年1月統合予定)

 高砂製作所

*EV: Electric Vehicle

*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems



*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

4-5. NECネットワークスアイ、アンリツ、AK Radio Designの3社で5G／ローカル5Gの普及拡大

当社は、NECネットワークスアイ株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役執行役員社長：牛島祐之）およびAK Radio Design株式会社（本社：神奈川県厚木市、代表取締役社長：片平昌喜）と、5Gビジネスの拡大を目的に、電波検証サービスの業務提携契約を締結しました。

5G／ローカル5Gは、高速・大容量の通信によりスマート化・デジタル化の推進が期待されている一方、普及には電波環境や機器構成の検討、免許申請など高い専門性が要求されます。自治体や企業でローカル5Gの導入を検討する際、現地の環境を計測して確認する必要がありますが、これらも専用の機器と専任のエンジニアが必要となります。

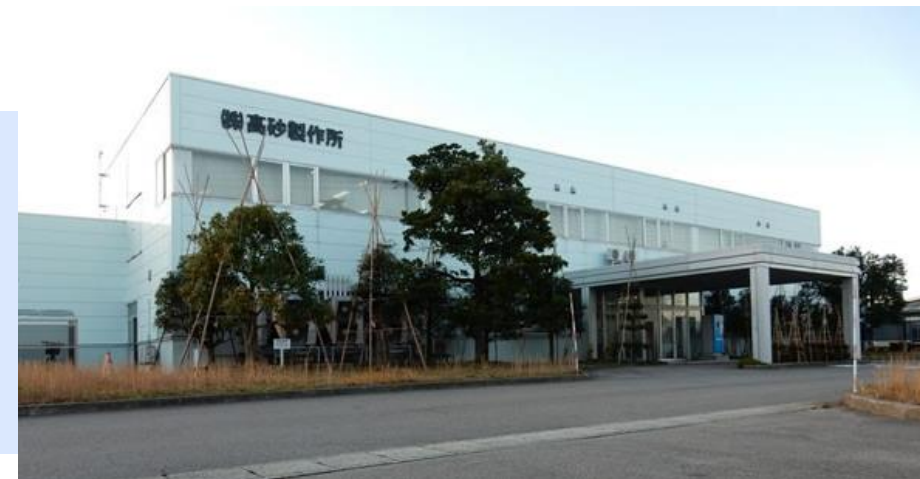
移動通信における工事実績や、ローカル5Gで各種の実証実験等を行いノウハウのあるNECネットワークスアイと、通信計測機器メーカーとしてネットワークや無線通信端末の通信品質検証に知見のあるアンリツと電波伝搬シミュレーションおよび実測を融合したサービスを提供するAK Radio Designの3社が業務提携することで、電波検証をパッケージサービスとして提供します。

3社は電波検証サービスで5G／ローカル5Gの普及を推進していくとともに、スマートシティーやSociety5.0※ がもたらすより快適で便利な社会の実現に貢献します。

※Society 5.0は、日本が提唱する未来社会のコンセプト。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

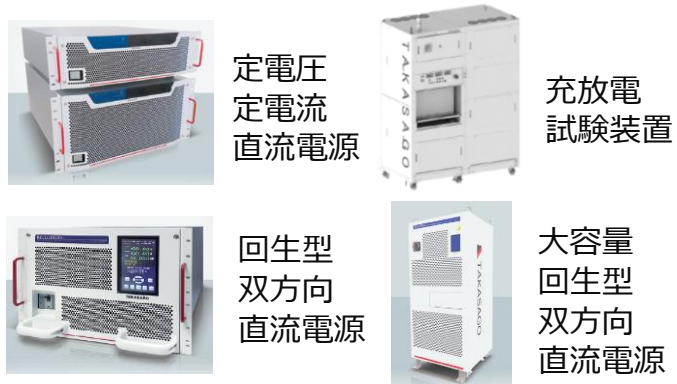
高砂製作所

- 設立 : 1950年7月25日
- 拠点 : (本社) 神奈川県川崎市高津区溝口1-24-16
(事業所) 山形県鶴岡市宝田三丁目14-2
- 従業員数 : 216名 (2021年9月1日現在)



鶴岡事業所

高砂製作所のコア技術



「EV、電池」の品質、信頼性を
評価する測定市場を開拓



- 高精度、高安定、高効率電源技術
- 充放電試験装置等のバッテリー評価技術
- 電力回生技術

Anritsu
Advancing beyond

